

# 2022年度 事業報告書（概要版）

東京都立大学 ダイバーシティ推進室

意識啓発

## ライフイベント支援に関するアンケート調査

出産・育児・介護などのライフイベントについて、より適切な支援策を講じることを目的として、ライフイベント支援に関する取り組みについてアンケート調査を行った。学生と教職員それぞれにWebフォームを用いて調査を実施し、学生は325件、教職員は256件の回答を得た。調査結果を踏まえ、「一時保育施設の利用登録手続きのメール受付による簡素化」や「専門相談員による講演会や講習会の開催などによる専門相談員のプレゼンス向上」などの改善策を検討した。

調査結果の概要は、ダイバーシティ推進室のWebサイトで公開している。



## 支援事業

### 障がいのある学生支援

聴覚障がいのある学生の受講する講義にて、遠隔情報保障システム captiOnlineを用いたパソコンテイクを行った。



その他、手話動画辞典の録取やバリアフリーチェックを実施した。他部署との協働等においては、障がいのある学生のキャリア支援や相談対応体制の見直し、また、学部・大学院における入試時の配慮申請の仕組みに関する再検討を行った。



### 学生支援スタッフの活動

対面での交流の機会が前年度よりも多くなり、ダイバーシティ推進室で支援活動に向けた作業や打ち合わせをする様子も増加した。

例えば、手話動画辞典の録取やパソコンテイクだけでなく、荒川キャンパスで行われた青鳩祭への参加、PEPNet-Japanシンポジウムの発表などで、学外へも当室の活動について紹介した。これらの活動では、上級生が下級生をけん引する様子も見られ、非常に心強い様子が見られた。

### 一時保育施設「都立大KIDS」

2015年3月に開設した一時保育施設「都立大KIDS」は、本学内の教職員、学生に利用されている。

今年度はコロナ禍が落ち着きを見せたこともあり、過去2年よりも利用者数が増加した。また、本学で開催される学会に参加する学外者の一時保育施設利用について、複数の要望があったことから検討を重ね、3月に試行した。2023年度より正式に運用を開始する予定である。

さらに、一時保育施設の認知度と利用者数の向上を目指した施設見学会を、前期と後期の2回に分けて開催した。



## ライフ・ワーク・バランス実現のための研究支援制度 相談・相談室の活用・対面朗読室の活用

### ダイバーシティ推進委員会メンバー ※◎はダイバーシティ推進室の構成員

所属	役員	氏名
◎東京都立大学	副学長 (ダイバーシティ推進委員会委員長) (ダイバーシティ推進室長)	伊藤 史子
人文社会学部	教授	矢嶋 里絵
法学部	教授	木村 草太 ~9月
法学部	准教授	稲田 奏 10月~
経済経営学部	准教授	森本 脩平
理学部	教授	田村 浩一郎
都市環境学部	助教	尾方 壮行
システムデザイン学部	准教授	小方 聡
健康福祉学部	教授	池田 由美
国際センター	准教授	嶋内 佐絵
◎東京都立大学管理部	学長室長	河井 晋平
東京都立大学管理部	教務課長	國政 浩
東京都立大学管理部	学生課長	河崎 健児
総務部 総務課	総務課長	松本 正己
総務部 総務課	人材育成係長	黒田 康正
総務部 人事課	人事課長	田邊 真琴
総務部 人事課	人事制度係長	佐藤 外記
◎ダイバーシティ推進室	特任研究員 (男女共同参画推進担当) (多様性を踏まえた構成員支援担当)	藤山 新
◎ダイバーシティ推進室	特任研究員 (障がいのある構成員支援担当)	益子 徹
東京都立大学管理部	学長室 調整担当係長	吉澤 智之
東京都立大学管理部	学長室 主任	三田 佑樹子 ~6月
東京都立大学管理部	学長室 主任	松村 裕介 7月~
東京都立大学管理部	学長室 主事	小野木 南帆



WEBサイト・Twitterでの発信  
Newsletterの発行  
メーリングリストの管理運営

## 情報発信

### 2022年度 事業報告書（概要版）

発行：東京都立大学 ダイバーシティ推進室  
所在地：〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1 図書館本館1階  
電話：042-677-1111 (内線2571) 直通：042-677-1337  
E-Mail：diverwww@tmu.ac.jp  
URL：https://www.comp.tmu.ac.jp/diversity/  
発行日：2023年4月27日



### ミニレクチャー「よるダイバー」開催

「ダイバーシティ」をめぐるさまざまなテーマについて、ミニ講義やディスカッションで学び、考える勉強会「よるダイバー」を開催した。基本的にオンライン形式で開催したが、前期1回、後期2回は対面とのハイブリッド形式で開催し、直接的なコミュニケーションをとりたい参加者のニーズにも対応した。基礎知識や時事的な話題についての講義だけでなく、それぞれのテーマに関するディスカッション、jamboardを用いたグループワークなど多彩な形式を用いるとともに、学生が講師を務める回を設けるなど、一方通行にならないような工夫を随所に取り入れた。退職された元教員やプレミアムカレッジの受講



生、社会人など、多様な背景を持つ幅広い年齢層の方の参加があったことも特徴的であった。



### 文化的多様性を持つ構成員交流会 「いけばな体験会」

外国籍の教職員や留学生が日本文化に触れながら交流を深めることを目的として、生け花の体験会を開催した。

参加者それぞれの簡単な自己紹介からスタートし、講師による生け花についての解説とデモンストレーションが行われた後、3グループに分かれての作品制作に取り組んだ。参加者同士は楽しそうにコミュニケーションをとりながら、作品制作を進めていった。完成した作品を前に、各グループの代表が作品のコンセプトなどを発表するプレゼンテーションを行い、自分たちの作品に込めた思いを語った。最後に、作り上げた作品とともに記念撮影を行い、交流会は終了した。使用した花を持って帰る参加者や、参加者同士で写真を取り合い、連絡先を交換する様子なども見られ、盛況のうちに会を終えることができた。



### セクシュアル・マイノリティ映画上映会 「カランコエの花」

セクシュアル・マイノリティが抱える問題を、当事者ではなく周囲の人々の目線から描いた映画『カランコエの花』の上映会を開催した。上映後は、小グループに分かれて感想を話し合う時間を持った。どのグループでも積極的に話し合いが行われ、セクシュアル・マイノリティに関する課題への関心の高さがうかがわれた。参加者同士が相互に考えを述べ合うことで異なった視点を得ることができるなど、従来の講演会形式とはまた異なった成果を見て取ることができた。

最後に、人文社会学部の杉田真衣准教授より、セクシュアル・マイノリティの若者を取り巻く現状についての情報提供と映画に関連する解説が行われ、映画の理解をより一層深めることができた。

### 第2回 バリアフリー講習会 「僕たちはどう働いていくのか」 ～バリアフリーな研究室のあり方と大学～

理系の研究室におけるバリアフリーの施工例や障がいのある研究者の紹介を中心に、障がいの理解に関する講習会を開催した。

講習の内容からは、社会がインクルーシブデザインに、どのように向き合うことが必要かについて検討することの重要性や、その検討を進める際に必要な基礎概念についても学習した。







# 「DIVERSITY WEEK 2022」の開催

2022年6月20日(月)～24日(金)にかけて、ダイバーシティウィーク2022を開催した。今年度は、「ダイバーシティの視点で見る防災・減災・復興」をテーマとし、講演会や映画の上映会を対面形式で実施した。学内所管部署の協力を得て、防災に関するポスターや物品の展示も行った。

## 映画上映会

### 「架け橋」きこえなかった3.11

聴覚障がいを持つ今村彩子監督が、東日本大震災の被災現場における聞こえない人の姿を伝えるドキュメンタリー作品『「架け橋」きこえなかった3.11』の上映会を行った。震災発生直後より聴覚障がい者の支援活動を支えていた、聴覚障害者宮城本部の対策本部長を中心に、さまざまな聴覚障がいの当事者が、それぞれに異なった困難に直面したようすや、それを支える人たちとの関係などが丁寧に描き出された。

## 男女共同参画講演会

### ジェンダーの視点で考える復興・防災

防災や災害からの復興の場面における、男女共同参画の視点の必要性和有効性を理解することを目的に、復興庁男女共同参画班の石塚文絵政策調査官を講師として講演会を開催した。避難所や仮設住宅をどう運営するか、必要な支援をどう求めていくか、生活再建をどう進めていくかなど、災害時にこそ「問題に気がつくための視点」「誰も切り捨てることのない視点」として、男女共同参画の視点が重要な意味を持つことが指摘された。

## バリアフリー講習会

### 障害のある人の防災とその避難について

東日本大震災の経験を踏まえ、大学や地域における防災を検討する際に必要な視点に関し、どのようなものがあるのかについて学習した。

実際の被災地の写真や動画を見た経験が少ない学生とともに災害時の避難について改めて振り返ることができただけでなく、実際の避難所を設置した場合に、どのような工夫や対応が求められるのかについて検討する機会となった。

## 文化的多様性講演会

### 多文化共生社会における災害対応

一般財団法人ダイバーシティ研究所の代表理事を務める田村太郎さんを講師に迎え、主に日本に住む外国の方が災害時に直面する課題や必要な支援など、災害時における多言語・多文化対応について学ぶ講演会を開催した。さまざまな現場で災害時の多文化支援に取り組んできた豊富な経験をもとに、外国人が災害時に直面しがちな困難や、日ごろの取組を通して「信頼できる情報ネットワーク」を構築することの意義について説明いただいた。

## 支援活動報告会

### バリアフリーチェック講習会報告

前年度に行ったバリアフリーチェック講習会の成果について報告した。チェックしたのは文系エリア(1号館等)であり、学生が中心となって、実際に車いすに乗り、運動機能障がいを有する人の目線に立ち、それぞれの計測等を行っている。

これらのチェックは、ただ疑似的にユーザーの目線で行うだけでなく、社会福祉や法学、作業療法等を学ぶ学生を交えて学びあうことで、学際的な学びを深める機会となった。

## 防災に関する展示・活動紹介

### 防災に関する展示

- 都立大防災マップ ● 備蓄防災用品の展示
- 「障害学生等の災害時対応」リーフレット

### ダイバーシティ全般

- ダイバーシティ推進室の取組
- 「3分でわかるダイバーシティ推進室」の紹介動画

### 男女共同参画の推進

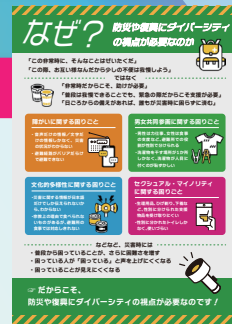
- 今なぜレジェジョ? ● 研究者として働くOGのロールモデル集
- 一時保育施設「都立大KIDS」の紹介動画

### 障がいのある構成員支援

- 都立大の障がいのある学生の支援の取組について

### 多様性のある構成員支援

- セクシュアル・マイノリティとスポーツ ● 文化的多様性に関する取組紹介
- セクシュアル・マイノリティに関する東京都立大学の対応ガイドラインについて



## 手話講習会(初級・中級)

手話検定4～5級レベルの学習(挨拶・自己紹介・都道府県など)を行った。

受講生からの希望に応じた基礎的な会話についても、一部扱う事で、より実践的な表現の獲得を目指した。講習会の後半には毎回ペアやグループにて手話を用いて会話練習をする時間を設けた。

対面での開催であったが、互いの手話表現を確認しつつ進めるなかで、聞こえや手話についての理解を一層深める様子が見られた。

## パソコンテイク講習会

パソコンテイク講習会では、遠隔情報保障システムの扱いについて学ぶとともに、通訳技術の向上を意識した中級・上級講座についても開講した。

開講に当たっては学生支援スタッフが中心となり実施した。

上級講座においては特任研究員による、より高度な内容を提供することで、次年度に向けた通訳技術の向上に努めた。



## バリアフリーチェック講習会

今年度のバリアフリーチェック講習会は、南大沢キャンパスの理系エリア8・9・11・12号館を中心にチェックを行った。

これらの講習では、実際に車いすに乗り、運動機能障がいを有する人の目線に立ち、それぞれの計測等を行うことで、疑似的にユーザーの目線でのチェックを行うだけでなく、その改善策等について学びあうことで、学際的な学びを深める機会となった。

例えば、システムデザイン学部や健康福祉学部の学生とともにユニバーサルデザインや福祉機器の利活用について検討しつつチェックを行った。これは他の専門領域を学ぶ学生にとっても新鮮な学びであり、日々のダイバーシティ推進に関する知見を深化させる取り組みであったといえる。



## セクシュアル・マイノリティ教職員研修

セクシュアル・マイノリティに関して、大学の教員・職員として知っておくべき情報や対応の原則などの理解を深めることを目的として、オンラインでの研修を行った。セクシュアル・マイノリティに関する基礎的な知識の提供、東京都パートナーシップ宣誓制度など近年の社会的な動向の紹介、本学における対応ガイドラインの概要説明、大学における対応の原則と留意したい点の解説などを行った。



## 大学説明会ダイバーシティ推進室事業紹介

ダイバーシティ推進室の取組から、「障がいのある学生支援」「理系女子のキャリアパス」「セクシュアル・マイノリティの理解」の3点について、ポスター展示と解説を行った。「障がいのある学生支援」は支援スタッフの学生が中心となって解説を行った。受験勉強の方法、サークル活動やアルバイトなどの学生生活の様子を中心に、受験を考えている高校生にとって身近な話題をテーマとした、支援スタッフによるトークも行われた。

